

# 中国が規制拡大

## レアメタル高騰

中国が2月に輸出規制対象に加えたタングステンなどの鉱物資源価格が上昇している。中国は2023年以降、レアメタル（希少金属）の輸出規制を強めてきた。発表から実施まで猶予があった従来とは異なり、即日での規制発動だったため、市場での供給懸念は一段と強い。

中国商務省と税関総署は2月4日、タングステンやテルル、ビスマス、モリブデン、インジウムといったレアメタルに関連する品目の輸出規制を公表した。同日にトランプ米政権が中国からのすべての輸入品に10%の追加関税を発動しており、対米報復といった見方が優勢だ。

### 対米報復か 先月に即日発動

輸出規制の対象品目はレアメタルごとに異なる。例えば鉄鋼用添加剤に使うモリブデンでは対象は金属モリブデンの粉末に限定される。専門商社アドバンストマテリアルジャパン（東京・千代田）の松村洋合金鉄部長は「この品目が総需要に占める割合はわずかで、国際指標となる三酸化モリブデンにまで影響は波及しない」とみる。半面、はんだに使われるビスマスは規制対象が幅広い。輸出規制後の価格高騰が目立つ。

### タングステンなど 供給懸念一段と

英調査会社アーガス・メディアによると、3月6日時点でAPTの欧州でのスポット（随時契約）価格は10万3650ドル前後と規制前から8%上昇し、アーガス・メディアは「脱中国」が進む。米国のタングステン業界では「25年1月から中国産タングステンに25%の関税をかける代替調達を推進している。日本でも三菱マテリアルが24年にドイツのタングステン素材メーカー、エイチ・シー・スタルク・ホールディング（HCS）を買収した。中国は23年以降、レアメタルの輸出規制を強めてきた。23年に半導体材料などに使うガリウムやゲルマニウムを輸出規制。24年9月中旬には自動車や電子機器の難燃剤として使うアンチモンも対象に加えた。アンチモンの欧州市場のスポット価格は、足元で規制発表前と比べ約2.2倍の水増しだ。中国からの輸出急減で供給懸念が意識されており、中国の関税データによると24年12月の輸出量は前年同月比で56%減った。日本に対する影響は大きく、24年10〜12月のア

中国は鉱物資源で高い世界シェア

品目	シェア	主な用途
タングステン	81%	超硬工具
ビスマス	80%	はんだ
テルル	67%	特殊鋼用添加剤
インジウム	66%	液晶パネルの電極材
モリブデン	42%	鉄鋼用添加剤

（注）各種資料からみずほ銀行産業調査部作成。2023年時点

三菱マテリアルからHCSに出向している小沢英之氏は「タングステンのリサイクル率を高めることで、グローバルでの安定供給を目指している」と語る。ただ現状では技術的なハードルからリサイクル率が低い製品も少なくなく、課題は残る。2月のレアメタル輸出規制は即日での輸出規制発動だった。みずほ銀行産業調査部の佐藤多嘉大シニアアナリストは「駆け込み輸入での備えが困難だった可能性がある」と指摘。「これまでの輸出規制以上に影響が大きくなりかねない」とみる。レアメタルは幅広い産業に欠かせない資源だ。日本と中国は輸出管理状況を協議する枠組み「日中輸出管理対話」を24年から開催している。経済産業省は中国による輸出規制の影響を「企業への聞き取りを通じて精査し、中国に対して適正な輸出管理を求める方針だ」（貿易経済安全保障局）と話す。（山田周吾）